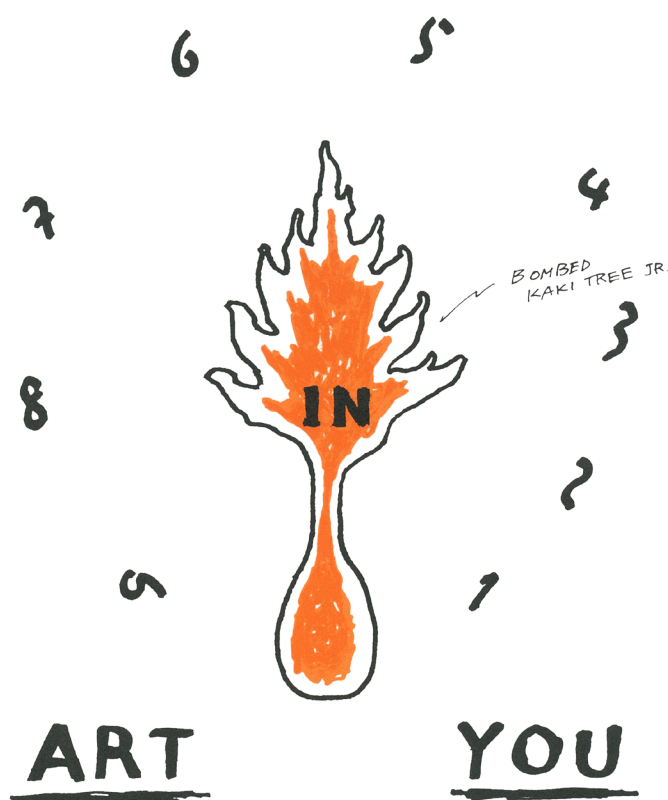


植樹式 2014



時の蘇生・柿の木プロジェクト

3 月 16 日		公立公園（パッシラーノ市役所近く） 1 イタリア・ブレシア県・パッシラーノ市
3 月 19 日		シルヴァーノ・ドルバ幼稚園 2 イタリア・アレッサンドリア県・シルヴァーノ・ドルバ市
3 月 20 日		ミランドラ幼稚園 3 イタリア・モデナ県・ミランドラ市
3 月 24 日		G. ロダリ小学校 4 イタリア・マントヴァ県・パニョーロ・サン・ヴィート市
3 月 24 日		グラスミア小学校 5 イギリス・ロンドン
3 月 28 日		ロルツソ・クトゥニョ刑務所女囚用庭 6 イタリア・トリノ県・トリノ市
4 月 3 日		ブレシア精神障害者支援財団 ヴィツラ・ザナルデッリの庭 7 ヴィツラ・ザナルデッリの庭 イタリア・ブレシア県・マデルノ市
4 月 14 日		ベアト・ルイジ・パラッツォロ小学校 8 イタリア・シラクサ県・レンティーニ市
4 月 25 日		平和の円形劇場・芸術多目的センター 9 イタリア・トリノ県・ヴェナーウス市
4 月 28 日		コミュニティ小学校 10 マリ共和国・イエレケブグー・ファンシラ・コロ村
4 月 29 日		ムニシティ小学校 11 マリ共和国・イエレケブグー・ンティエアニ村
5 月 1 日		サラ公園 12 イタリア・レッジョ・カラブリア県・リアーチェ市
5 月 2 日		「知識の鍵」図書館 13 マリ共和国・カティ
5 月 21 日		アレッサンドロ・ボルタ高等教育研究所 14 イタリア・パヴィーア県・パヴィア市
6 月 19 日		エルビラ・ヴァトヴェク小学校 15 スロベニア・ストルニヤン
10 月ー11 月		ンゴロファラ村の診療所 16 マリ共和国・ンゴロファラ
10 月ー11 月		ジギヤ・ソ・リハビリテーション 17 マリ共和国・カティ

公立公園（パッシラーノ市役所近く）



イタリア



ブレシア県・パッシラーノ市



2014年3月16日

パッシラーノ市役所からの申込により、植樹が実現しました。植樹場所は市役所と小・中学校の校舎の間に位置する公立公園で、多くの様々な木々が植えられている非常に良い環境の広大な緑地です。植樹式は、2014年3月16日に行われました。人々は テアトロ・チーヴィコ（市民劇場）に集まり、音楽隊による歓迎曲の演奏、村長、公教育担当の評議員によるスピーチ、また中学校の音楽科の生徒によるコンサートが行われました。その後、音楽隊の演奏とともに、テアトロ・チーヴィコ（市民劇場）から、パルコ・デル・ムニチーピオ（公立公園）まで、柿の木を持ちながら、行進が行われました。公立公園で柿の木の植樹は行われ、柿の木のまわりで、子供たちによる感想文が披露されました。

今後は、市役所の職員が中心になり柿の木を世話し、この柿の木を通して、小・中学校の子どもたちに「平和」を伝えていくことになります。

2018年、イタリアから来日したイタリアの方たちから、小冊子による報告がありました。パッシラーノの柿の木は大きく成長し、たくさんの実を付けています。



シルヴァーノ・ドルバ幼稚園



イタリア



アレッサンドリア県・シルヴァーノ・ドルバ市



2014年3月19日



植樹の申しこみをしてくれたのはエリカ・セッシさんです。エリカさんは2010年より、自治体と一緒に町の緑をふやす活動しており、「Natura in Gioco」（自然と遊ぼう）というプロジェクトを立ちあげました。このプロジェクトを通して、ファッションブランドのエスプリのマネージャーであり、「II Mondo di Pippi（ピッピの世界）」のクリエイターであるマルゲリータ・ヴィツィオさんと知りあい、二人は協力して柿の木プロジェクトに参加することを決めてくれました。

「II Mondo di Pippi（ピッピの世界）」は、子ども達、ファミリー、学校向に考案されたイベントで、娯楽や遊びを通して、平和の問題についての意識を高めてもらうことを目的としています。毎年何千人の子ども達が学校や家族と一緒に参加しています。

2013年10月31日から11月3日まで開催されたマントバのFiera Millenaria di Gonzagaで、「II Mondo di Pippi（ピッピの世界）」と「Natura in Gioco」（自然と遊ぼう）は、柿の木プロジェクトのために特別な空間を設けました。3本の「平和の木」を育ててくれる小学校を選ぶために、「平和の木」コンテストが開催され、エリカ・セッシさんとカルロッタ・カサッチさんによるワークショップの中で、子どもたちは、乾かした柿の葉や簡単な素材を用いて特定のテーマについて自由に表現しました。

選ばれたのはアレッサンドリアのシルヴァーノ・ドルバ幼稚園、エミリアロマーニャのミランドラ幼稚園とマントバのマニョロ・サンヴィット小

学校です。子ども達はパオラ・マンクーン、サラ・クレモンテ、マリーナ・ガルバリーノ先生らの指導の下で一緒に取り組み、彼らの平和の木を「パネロ」と名づけました。

2014年3月19日、シルヴァーノ・ドルバへのパネロの到着を祝うために、盛大なパーティーが催され、シルヴァーナ・マッジョリーノ市長、ドン・サンドロ神父、コンプリヘンシブスクール（総合学校）長のフェリーチェ・アルロッタ教授、文化協会「IR Bargiu」を代表したジョヴァンニ・カルデローネ氏、ならびにシルヴァーノ・ドルバの保育園と小学校の子ども達と多くの親たちが出席しました。市長、神父、総合学校長、ジョヴァンニ・カルデローネ氏、数名の親たちが順番に平和の木の御伽噺を読み聞かせたので、皆がこの感動的な物語を学ぶことができました；その後パネロのために子ども達が歌を歌い、ダンスをして、神父も祝福を与えました。全ての参加者がパネロの植樹を手伝うことが出来ました。お祝いの最後になって、日本の柿の木プロジェクトの事務局から送られたプレゼントを子ども達が受け取り、海老沼先生から送られたメッセージを読みました。



ミランドラ幼稚園



イタリア



モデナ県・ミランドラ市



2014年3月20日

植樹の申しこみをしてくれたのはエリカ・セッシさんです。エリカさんは2010年より、自治体と一緒に町の緑をふやす活動しており、「Natura in Gioco」（自然と遊ぼう）というプロジェクトを立ちあげました。このプロジェクトを通して、ファッションブランドのエスプリのマネージャーであり、「II Mondo di Pippi（ピッピの世界）」のクリエイターであるマルゲリータ・ヴィツィオさんと知りあい、二人は協力して柿の木プロジェクトに参加することを決めてくれました。

「II Mondo di Pippi（ピッピの世界）」は、子ども達、ファミリー、学校向に考案されたイベントで、娯楽や遊びを通して、平和の問題についての意識を高めてもらうことを目的としています。毎年何千人の子ども達が学校や家族と一緒に参加しています。

2013年10月31日から11月3日まで開催されたマントバのFiera Millenaria di Gonzagaで、「II Mondo di Pippi（ピッピの世界）」と「Natura in Gioco」（自然と遊ぼう）は、柿の木プロジェクトのために特別な空間を設けました。3本の「平和の木」を育ててくれる小学校を選ぶために、「平和の木」コンテストが開催され、エリカ・セッシさんとカルロッタ・カサッチさんによるワークショップの中で、子どもたちは、乾かした柿の葉や簡単な素材を用いて特定のテーマについて自由に表現しました。

選ばれたのはアレッサンドリアのシルヴァーノ・ドルバ幼稚園、エミリア ロマーニャのミランドラ幼稚園とマントバのマニョロ・サンヴィット小学校です。子ども達はパオラ・マンクーツ、サラ・クレモンテ、マリーナ・ガルバリーノ先生らの指導の下で一緒に取り組み、彼らの平和の木を「パネロ」と名づけました。



G. ロダリ小学校



イタリア



マントバ県・バニョーロ・サン・ヴィート市



2014年3月24日

植樹の申しこみをしてくれたのはエリカ・セッシさんです。エリカさんは2010年より、自治体と一緒に町の緑をふやす活動しており、「Natura in Gioco」(自然と遊ぼう)というプロジェクトを立ちあげました。このプロジェクトを通して、ファッションブランドのエスプリのマネージャーであり、「II Mondo di Pippi(ピッピの世界)」のクリエイターであるマルゲリータ・ヴィツィオさんと知りあい、二人は協力して柿の木 プロジェ



クトに参加することを決めてくれました。

「II Mondo di Pippi(ピッピの世界)」は、子ども達、ファミリー、学校向に考案されたイベントで、娯楽や遊びを通して、平和の問題についての意識を高めてもらうことを目的としています。毎年何千人の子ども達が学校や家族と一緒に参加しています。

2013年10月31日から11月3日まで開催されたマントバのFiera Millenaria di Gonzagaで、「II Mondo di Pippi(ピッピの世界)」と「Natura in Gioco」(自然と遊ぼう)は、柿の木プロジェクトのために特別な空間を設けました。3本の「平和の木」を育ててくれる小学校を選ぶために、「平和の木」コンテストが開催され、エリカ・セッシさんとカルロッタ・カサッチさんによるワークショップの中で、子どもたちは、乾かした柿の葉や簡単な素材を用いて特定のテーマについて自由に表現しました。

選ばれたのはアレッサンドリアのシルヴァーノ・ドルバ幼稚園、エミリアロマーニャのミランドラ幼稚園とマントバのマニョロ・サンヴィト小学校です。子ども達はパオラ・マンクース、サラ・クレモンテ、マリーナ・ガルバリーノ先生らの指導の下で一緒に取り組み、彼らの平和の木を「パネロ」と名づけました。

グラスミア小学校

🇬🇧 イギリス

📍 ロンドン

🌱 2014年3月24日

植樹の申込みをしてくれたジェニファー・イシドールさんは、社会企業家で、草の根レベルで平和への取り組みを推進するために地域社会で積極的に活動をしてきた方です。2013年4月のイギリスのタプローコートでの植樹式に参加したジェニファーさんは、自ら柿の木プロジェクトを実施したいと考え、地域の芸術プログラムに参加しているグラスミア小学校の校長先生に柿の木プロジェクトの話をしました。校長先生



はプロジェクトにとっても興味をもち、ぜひ実現したいとジェニファー・イシドールさんを通じて申込みをしてくれました。

植樹式に先駆け、3月9日に柿の木プロジェクトのプレイベントが開催されました。ジャズボーカリストのクリーブランド・ワトキス氏は、即興演奏のワークショップを開き、子どもたちとジャズやアフリカの太鼓演奏をしました。また、柿の木プロジェクトの話、折り紙ワークショップも行われ、子どもたちが柿の木を迎える気持ちを高めてくれました。

3月24日の植樹式は快晴に恵まれ、植樹場所には、千羽の折りヅルが下げられました。植樹式には、子ども達、先生、保護者や地域の方々も参加してくださり、参加者たちは柿の木プロジェクトの「心」にふれたとのことでした。



ロルッソ・クトゥニョ刑務所女囚用庭



イタリア



トリノ県・トリノ市



2014年3月28日



2017年3月29日 再植樹

2009年2月21日のイタリア・ブレーシャ・ジュゼッペ市のリストランテ「カステッロ・マルベッツィ」、2011年4月2日のイタリア・ラクイラのジョスエ・カルドウッチ第一中学校、2012年4月14日のイタリア・トリエステ、サンジョバンニ公園、4月24日のイタリア・布林ディジ、ヴァレ・ディトリア植物温室園、6月9日のアフガニスタン、カブール国立美術館と、数々の植樹を手がけてくれたティツィアナ・ボルタさんは、平和の木の植樹候補地を、（平和をもたらすこと、もしくは植物の多様化に貢献することを条件に、あてはまる場所を探してくれました。今年彼女が選定したのは、トリノのロルッソ・クトゥニョ刑務所、ヴェナウス平和の円形劇場芸術多目的センター、リアーチェのサラ公園の3か所です。

ルッソ・クトゥニョ刑務所は1986年に設立され、その後1995年には中毒者専用のアルコバレノ・セクションが建設されました。女囚部門は1999年の建設です。最大収容人数10人の小さな部門で、リハビリに取り組む意欲のある女囚のためとなっています。

3月28日の植樹式には、ブレーシャのフランチェスコ氏もご参加下さり、初めに屋内にて、参加者にプロジェクトの説明が行われました。屋外では、コーラスが披露され、柿の木が植樹されました。

2018年、ティツィアナ・ボルタさんから、柿の木の写真が届きました。まだ大きくはなつていませんが、しっかりと根付いた様子です。



ブレシア精神障害者支援財団 ヴィッラ・ザナルデッリの庭



イタリア



ブレシア県・マデルノ市



2014年4月3日



FoBAP Onlus（ブレシア精神障害者支援財団・非営利団体）は、Anffas（イタリア知的関係的障害者家族協会）の発案で設立された、精神障害者への支援に取り組む機関です。植樹はヴィッラ・ザナルデッリの庭で行われました。柿の木プロジェクトの一環であるこのイベントを、より有意義なものにしようと学校の約200人の生徒や当局者、その他の人々が参加してくれました。湖畔での我々の出会いは、「平和」という貴重な財産について語っています。そして、そ

の財産を守ることがいかに大切かも語っています。ジュゼッペ・ザナルデッリ氏が愛したお屋敷の庭園に植樹される木は、振り返るべき歴史を持っています。

ヴィッラ・ザナルデッリの柿の木は、ブレシア県で植樹された34番目の木です。さらに他の苗木もここを自らの居場所として住み着き、成長し、そして絶対的な財産である平和の大地をより肥沃にしてくれるよう、期待されています。

ベアト・ルイジ・パラッツォロ小学校

 イタリア



シラクーザ県・レンティーニ市



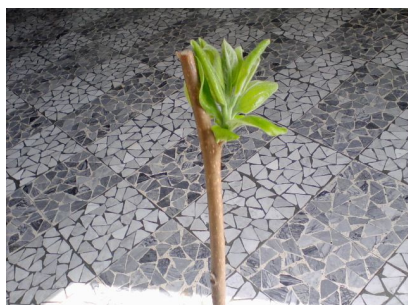
2014 年 4 月 14 日

2012 年にイタリア・シチリアの植樹申込者ロサリオ・スコロ氏を通して、植樹申込がありました。レンティーニはシチリア島にある温暖な町で、オレンジの木が町のシンボルとなっています。

4 月 14 日の植樹式には、レンティーニ市長、Mother Superior、小学校の子どもたち、先生が参加しました。子どもたちによる詩の朗読、歌の披露があり、平和の「絵」を描きました。

柿の木の植樹の後に、子どもたちは「平和と愛」と書いたメッセージをつけたオレンジ色の風船をとばしました。

みんなで軽食を食べて、その日は子どもたちにとって、強く「命」のことを学ぶことができ、柿の木に感謝した、とても大切な 1 日となりました。



平和の円形劇場・芸術多目的センター

 イタリア

 トリノ県・ヴェナーウス市

 2014 年 4 月 25 日

2009 年 2 月 21 日のイタリア・ブレーシャ・ジュゼッペ市のリストランテ「カステッロ・マルベッツィ」、2011 年 4 月 2 日のイタリア・ラクイラのジョスエ・カルドウッチ第一中学校、2012 年 4 月 14 日のイタリア・トリエステ、サンジョバンニ公園、4 月 24 日のイタリア・ブリンディジ、ヴァレ・ディトリア植物温室園、6 月 9 日のアフガニスタン、カブール国立美術館と、数々の植樹を手がけてくれたティツィアナ・ボルタさんは、平和の木の植樹候補地を、(平和をもたらすこと、もしくは植物の多様化に貢献することを条件に、あてはまる場所を探してくれました。今年彼女が選定したのは、トリノのロルッソ・クトウニョ刑務所、ヴェナウス平和の円形劇場芸術多目的センター、リアーチェのサラ公園の 3 か所です。

ヴェナウスは、「道といえるような道」はたったの一本しかない典型的なアルプスの郊外の村です。ナポレオンにより造成されたそのただ一つの道は 1806 年以前にはフランスの領土であった Moncenisio の丘にあり、Montana Valley Susa と Val Sangone の地域にまたがっています。

この道は 2005 年の 11 月から 12 月にかけて、国内外から注目を浴びることになりました。高



速鉄道トリノーリヨン線の建設に伴う敷地確保に反対する No TAV 運動がこの地で起こったからです。衝突も起こりましたが、Nilo Durbiano 市長の尽力のおかげで、Artistic Polyvalent Center (多目的芸術センター) が設立されました。

この土地は 2008 年 5 月に大きな洪水に襲われ土砂が流れ込みました。そのことがあって、市長は以前から国際的な芸術活動が行われていたこの場所に Natural Amphitheater (自然の円形劇場) を建設することを決めたのです。円形劇場は Val of Susa (スーナの谷) の住民が愛する Rocciamelone 山にその威容を誇っています。舞台の隅の壁には長崎の柿の木を植えるためのくぼみが設けられています。柿の木は、この土地の復興の象徴として植樹され、円形劇場を見守っていくことになります。



コミュニティ小学校



マリ共和国



イエレケブグー・ファンシラ・コロ村



2014年4月28日

アフリカブグー (ABG) は、イタリアの NPO で、2005 年から、アフリカ大陸北西部に位置するマリ共和国で活動しています。本組織は、首都バマコから北へ約 40km 離れた所にある、イエレケブグーという村落の各地で、教育と保健インフラの建設および運営を、その村落と地方行政と共にを行っています。

具体的には、4 校の地域学校（ンティエアニ、ジニンジェブグー、コバ、ファンシラ・コロの村々）と 1 軒の診療所（ンゴロファラ村）が、健康教育、森林再生、園芸、マイクロ・クレジット及び給水といった、他のプロジェクトと共に、建てられました。

ABG はまた、この地域で 40 年ほど前から活動している、イタリア人宣教師たちと協力して、生徒・学生たちのための小さな図書館と、障害のある子ども達のためのセンターの建設でも支援をしました。2012 年に軍事クーデターが発生し、民主的に選ばれた政府が倒されました。それに続き、トゥアレグ人の反政府勢力と

イスラムグループが、国の北部地域を制圧しました。国際的圧力の下、合法的な民主状況に戻そうとする試みのために、暫定政権が樹立されました。この国が内戦に発展しかねない、内部の緊張を経験しているという事実をかんがみて、柿の木プロジェクトの平和と希望のメッセージを、これらの地域に伝えることが、最も重要なことではないかということから、植樹の申し込みがありました。

植樹式の数日前から様々な活動がたくさん行われました。苗木の横に設置される銘板が製作され、茂みに植えられた苗木を動物たちから保護するための戦略が検討され、植樹のための穴と土壌が整備され、演劇のリハーサルが行われ、カティの学校 4 校で平和をテーマにした絵と詩のコンテストが行われて入賞者が選出され、飾りつけと子ども達への活動が準備

されました。これら全ての作業は多くの人々、生徒たち、先生方、職人たち、ボランティアの皆さん、新しい友人たちのお陰で可能になりました。彼らが注いでくれた熱意とエネルギー、そして彼らの存在によって創り出された雰囲気に対し、全員に感謝の意を表したいと思います。

長崎からの被爆柿の木 2 世のアフリカでの最初の植樹は、首都バマコから北に 50 キロ離れたサバンナに



位置する、住民 400 人のファンシラ・コロという村で行われました。植樹は 4 月 28 日でした。乾季にもかかわらず、式典の間、突然の豊かな大雨が柿の木を迎えてくれました。

学校の生徒全員、先生方、教育委員会の皆さん、村人たちが一緒に多くの活動に参加してくれました。木谷安憲さん

の美しい作品のおかげで、柿の木の歴史が描写され、参加者たちと分かち合われました。ボール紙を張り合わせて大きな柿の木の絵が作られ、子ども達は夫々柿の木の枝の下に自分の絵を描きました。別のグループは折り紙で柿の実を作ることに挑戦し、地面に創られた枝葉のある木の上に並べられました。学校から植樹場所まで、オレンジ色の石が式典の小さな行列を導きました。日本からの贈り物が届けられ、海老沼先生のメッセージは、とりわけ情熱的で心に響いた瞬間でした。

ンティエアニの村長は、この地域を代表して、この柿の木を守っていくことへの誇りを表し、この日の終わりには、コミュニティ全体の集合場所となってくれたことへの感謝の意を表すために、村の女性たちが皆一緒になって柿の木を囲んでダンスをしました。



コミュニティ小学校



マリ共和国



イエレケブグー・ンティエアニ村



2014年4月29日

アフリカブグー（ABG）は、イタリアのNPOで、2005年から、アフリカ大陸北西部に位置するマリ共和国で活動しています。本組織は、首都バマコから北へ約40km離れた所にある、イエレケブグーという村落の各地で、教育と保健インフラの建設および運営を、その村落と地方行政と共にを行っています。

具体的には、4校の地域学校（ンティエアニ、ジニンジェブグー、コバ、ファンシラ・コロの村々）と1軒の診療所（ンゴロファラ村）が、健康教育、森林再生、園芸、マイクロ・クレジット及び給水といった、他のプロジェクトと共に、建てられました。ABGはまた、この地域で40年ほど前から活動している、イタリア人宣教師たちと協力して、生徒・学生たちのための小さな図書館と、障害のある子ども達のためのセンターの建設でも支援をしました。2012年に軍事クーデターが発生し、民主的に選ばれた政府が倒されました。それに続き、トゥアレグ人の反政府勢力とイスラムグループが、国の北部地域を制圧しました。国際的圧力の下、合法的な民主的状況に戻そうとする試みのために、暫定政権が樹立されました。この国が内戦に発展しかねない、内部の緊張を経験しているという事実をかんがみて、柿の木プロジェクトの平和と希

望のメッセージを、これらの地域に伝えることが、最も重要なことではないかということから、植樹の申し込みがありました。

植樹式の数日前から様々な活動がたくさん行われました。苗木の横に設置される銘板が製作され、茂みに植えられた苗木を動物たちから保護するための戦略が検討され、植樹のための穴と土壌が整備され、演劇のリハーサルが行われ、カティの学校4校で平和をテーマにした絵と詩のコンテストが行われて入賞者が選出され、飾りつけと子ども達への活動が準備されました。これら全ての作業は多くの人々、生徒たち、先生方、職人たち、ボランティアの皆さん、新しい友人たちのお陰で可能になりました。彼らが注いでくれた熱意とエネルギー、そして彼らの存在によって創り出された雰囲気に対し、全員に感謝の意を表したいと思います。

マリ共和国に送った5本の柿の木のうち1本が、ンティエアニ村のコミュニティ小学校に植樹されました。ファンシラコロ村のコミュニティ小学校と同様、学校の生徒全員、先生方、教育委員会の皆さん、村人たちと一緒に多くの活動に参加しました。



サラ公園

イタリア



レッジョ・カラブリア県・リアーチェ市



2014年5月1日

2009年2月21日のイタリア・ブレーシャ・ジュゼッペ市のリストランテ「カステッロ・マルベツィ」、2011年4月2日のイタリア・ラクイラのジョスエ・カルドウッチ第一中学校、2012年4月14日のイタリア・トリエステ、サンジョバンニ公園、4月24日のイタリア・ブリンディジ、ヴァレ・ディトリア植物温室園、6月9日のアフガニスタン、カブール国立美術館と、数々の植樹を手がけてくれたティツィアナ・ボルタさんは、平和の木の植樹候補地を、(平和をもたらすこと、もしくは植物の多様化に貢献することを条件に、あてはまる場所を探してくれました。今年彼女が選定したのは、トリノのロルッソ・クトウニョ刑務所、ヴェナウス平和の円形劇場芸術多目的センター、リアーチェのサラ公園の3か所です。



サラ公園は、1972年に蘇った古代ギリシャ時代の二つの銅像（現在はリアーチェのブロンズ像として知られています）の物語に相応しい場所です。1999年に Città Futura association が設立され、その後他の南部の4つの協会、Lampedusa、Il Girasole、Real Riace、Riace Accoglieが続いて設立されました。そしてそれに伴い、現在世界中のお手本となっている移民プログラムが誕生したのです。2004年から市長を務めているドメニコ・ルカーノ市長は、2010年に移民政策に関する世界市長賞を授与されました。今では約150人の移民が地元住民に受け入れられ、地方当局の支援を受けて職を得、郊外の経済に貢献しています。地元の伝統に従った革新的な取り組みとしては、ロバを使った収穫の多様化が挙げられます。

ルカーノ市長は、水を運ぶ人に捧げられている Sarah 公園を、人種に関わらず新たにリアーチェ市民になった一人一人につき一本の木を植える場所としたいと常に考えていました。長崎の柿にも、戦地の人々の生命の尊厳に対する希望の象徴として、公園内に植樹されました。

「知識の鍵」図書館

 マリ共和国

 カティ

 2014 年 5 月 2 日



植樹式の数週間前に絵と作文のコンテストに参加したカティの学校から来たおよそ 400 人の子ども達で、にぎやかな植樹式となりました。図書館全体が子ども達の絵で彩られました。図書館長のポールさんの、皆に出会いと知識の交換の場であるこの建物に来てほしいというメッセージのお陰で、多くの子ども達にとって図書館を知る機会となりました。ここにいたという証拠を示し、そのメッセージを分かち合うために、各参加者は、葉や柿の実や自分の手形を押して、入口につるされた大きな柿の木をした作品に貢献しました。the amis de Kizito(キ



ジトの友人たち) グループの演劇パフォーマンスでは、子ども達全員が沈黙しました。木を囲んでいた子ども達に落ちてきた原爆の轟音を前にして驚いて言葉を失い、海老沼先生のお世話のお陰で治療され、新しい実が再び誕生する場面では歓声を上げていました。その後、植樹が行われました。子ども達によって土と水をかけられ、海老沼先生のメッセージが読み上げられました。植樹式はコンテスト優勝者たちへの賞品授与で締めくくられました。平和についての文章を書いた低学年の参加者たちには色鉛筆が、高学年の生徒たちには 1 年間図書館に自由に立ち入ることのできる権利が与えられました。これは、無知と非寛容を破壊し、文化を通して平和が築かれると考える図書館の委員会によって、強く支持された意義深い賞です。その結果式典が終わった翌週既に、コンテスト優勝者たちが初めて図書館にやって来たのです。これからもマリ共和国で子どもたちと共に柿の木が大きくなってくれることを願っています。

アレックス・ボルタ 高等教育研究所



イタリア



パヴィーア県・パヴィア市



2014 年 5 月 21 日

パヴィアは、イタリアのミラノの近くの歴史的建造物や遺跡が残るとても重要な町です。申込者のダリオ・モリナリ先生は、1999 年のベネチアビエンナーレの展覧会を見て、柿の木プロジェクトを実現したいと思っていました。アレックス・ボルタ高等教育研究所では、高校生たちが中心になり、植樹に先駆け、近隣の幼稚園、小学校など多くの人々によびかけ、平和に翼と根を（長崎からパヴィアへの時空の旅）と題したイベントを 2014 年 5 月 17 日に開催しました。イベントでは、子どもたちの平和の木にまつわる感想、絵、文章やスローガンなどのパネルが展示されました。

高校生たちの活発な活動により、様々な制作物・アート作品が生まれました。町のウィンドウには柿の木のポスターが張り出され、5 月 21 日の「被爆柿の木 2 世」の植樹式には、たくさんの人々がボルタ高校の中庭に集まりました。大きな庭に大きな人文字のピースマークを作り、植樹を祝いました。高校生がつくった柿の木の話の素晴らしいマンガが送られてきました。



エルビラ・ヴァトヴェク小学校

 スロベニア

 ストルニャン

 2014 年 6 月 19 日

ストルニャンはスロベニア沿岸の中央部に位置し、イタリアとクロアチアの国境にあるバイリンガル地域に隣接しています。

自然が保護されるストルニャン渓谷は、塩田での伝統的な塩作りと豊かな農業の伝統で知られています。また、遠く離れたストルニャン渓谷は、柿の生産でも知られています。

今回の植樹申込は、イタリアのティツィアナ ボルタさんを経由してきました。ティツィアナ ボルタさんは、イタリア植樹の要として活動してくださっているお一人です。2012 年 4 月 14 日のイタリア・トリエステのサンジョバンニ公園の植樹式に参加していた Romana Kacic さんは、サンジョバンニ公園の植樹式で kako of nagasaki（長崎の過去）と共に「Angolo della Memoria（アングロ・デラ・メモリア）」を計画した建築家です。

植樹式に先立ち約 2 週間にわたり、柿の木プロジェクトのイベントが開催され、最終日の 6 月 19 日に植樹が行われました。植樹式には、リュブリャナから日本大使館の阿部氏がご出席下さいました。また、現地のゆみさんがお手伝い下さり、日本の伝統的な歌や詩も紹介され、ストルニャンの学校からたくさん子どもたちが参加してくれ、素晴らしい植樹式となりました。



ンゴロファラ村の診療所

 マリ共和国
 ンゴロファラ
 10 月～ 11 月

ジギヤ・ソ・リハビリテーション

 マリ共和国

 カティ

 10 月～ 11 月